

第2章 柏市の文化遺産

2-1. 指定等文化財の状況

本市には、国指定文化財 2 件、県指定文化財 10 件、市指定文化財 26 件、国登録有形文化財 2 件、国登録記念物 2 件の総計 42 件がある。このうち文化財の類型ごとの内訳は、建造物 11 件、絵画 2 件、彫刻 6 件、考古資料 1 件、歴史資料 1 件、無形の民俗文化財 6 件、遺跡 7 件(うち埋蔵文化財に該当するもの 4 件)、名勝地 2 件、動物、植物、地質鉱物 6 件となっており、有形文化財の工芸品、書跡・典籍、古文書、無形文化財、有形の民俗文化財、文化的景観、伝統的建造物群保存地区、文化財の保存技術が 0 件となっている。時代区分でみると、先史時代 3 件、古代 2 件、中世 8 件、近世 11 件、近代 4 件となっている(無形文化財、民俗文化財、動物、植物、地質鉱物は除く)。

表 2-1: 柏市における指定文化財, 登録文化財

			国指定等	県指定	市指定	国登録	県登録	計
有形文化財	建造物		1	2	6	2	0	11
	美術工芸品	絵画	1	1	0	0	0	2
		彫刻	0	3	3	0	0	6
		工芸品	0	0	0	0	0	0
		書跡・典籍	0	0	0	0	0	0
		古文書	0	0	0	0	0	0
		考古資料	0	0	1	0	0	1
		歴史資料	0	1	0	0	0	1
無形文化財	演劇,音楽,	C芸技術	0	0	0	0	0	0
民俗文化財	有形の民俗文化	上財	0	0	0	0	0	0
	無形の民俗文化	上財	0	1	5	0	0	6
記念物	遺跡		0	2	5	0	0	7
	名勝地		0	0	0	2	0	2
	動物,植物,地	質鉱物	0	0	6	0	0	6
文化的景観		0	_	_	_	_	0	
伝統的建造物群保存地区		0	_	_	_	_	0	
合計		2	1 0	2 6	4	0	42	

令和5年(2023)3月現在

表 2-2: 柏市 指定・登録文化財 時代区分

			原始	古代	中世	近世	近代	計
有形文化財	建造物		0	0	3	6	2	11
	美術工芸品	絵画	0	0	0	2	0	2
		彫刻	0	2	3	1	0	6
		工芸品	0	0	0	0	0	0
		書跡・典籍	0	0	0	0	0	0
		古文書	0	0	0	0	0	0
		考古資料	0	1	0	0	0	1
		歷史資料	0	0	1	0	0	1
民俗文化財	無形の民俗文化	公財	0	0	0	5	1	6
記念物	遺跡		1	1	1	1	2	7
	名勝地		0	0	0	1	0	1
合計			1	4	8	1 1	4	_

令和5年(2023)3月現在

表 2-3:柏市 指定・登録文化財一覧(順不同)

文化財名称	分 野		名 称	所有形態			
国指定重要文化財	絵画	紙本墨画淡彩弄玉	仙図 岩佐勝以筆	個人			
	建造物	旧吉田家住宅主屋は	まか 7 棟	柏市			
国登録有形文化財	建造物	伊藤家住宅ほか 5	棟	個人			
		染谷家住宅主屋ほれ	か 7 棟	個人			
国登録記念物	名勝地	旧吉田氏庭園		柏市			
		染谷氏庭園		個人			
千葉県指定文化財	有形文化財	建造物	旧手賀教会堂	柏市			
		(建 垣初	東海寺本堂・楼門・鐘楼	東海寺			
		絵画	聖画	手賀正教会			
			木造阿弥陀如来坐像	萬福寺			
		彫刻	木造大日如来坐像	覚王寺			
			木造聖観世音菩薩坐像	弘誓院			
		歴史資料	妙法蓮華経板木(開結とも)	弘誓院			
	遺跡	北ノ作1・2号墳	·	個人			
		藤ヶ谷十三塚		柏市			
	無形の民俗文化財	でででで、後に変して、		保存会			
柏市指定文化財	有形文化財		福寿院観音堂	福寿院			
			* * 鮮魚街道常夜燈	個人			
		建造物	車ノ前五輪塔	福満寺			
			神明社手洗鉢・石鳥居	神明社			
			阿弥陀様板碑	福満寺			
			おせし様板碑	個人			
			如意輪観音像	持法院			
		彫刻	薬師如来坐像	医王寺			
			銅造阿弥陀如来及び両脇侍立像	善照寺			
		考古資料	柏市				
	無形の民俗文化財	船戸のおびしゃ	保存会				
		若白毛ばやし	保存会				
		十二座神楽	保存会				
		大室の盆綱引き	保存会				
		手賀ばやし	保存会				
	遺跡	旧手賀教会堂	柏市				
		金毘羅宮と大沼枕口	個人				
		松ケ崎城跡					
		宮根遺跡		広幡八幡宮			
		今谷刑場跡	個人				
	動物,植物,	寿量院の玄圃梨		寿量院			
	地質鉱物	高柳・善龍寺の五類	葉松	高柳・善龍寺			
		弘誓院の銀杏樹	弘誓院				
		法林寺の大銀杏		法林寺			
		カタクリ群生地	柏市				
		妙照寺の杉樹	妙照寺				

令和 5 年(2023)3 月現在

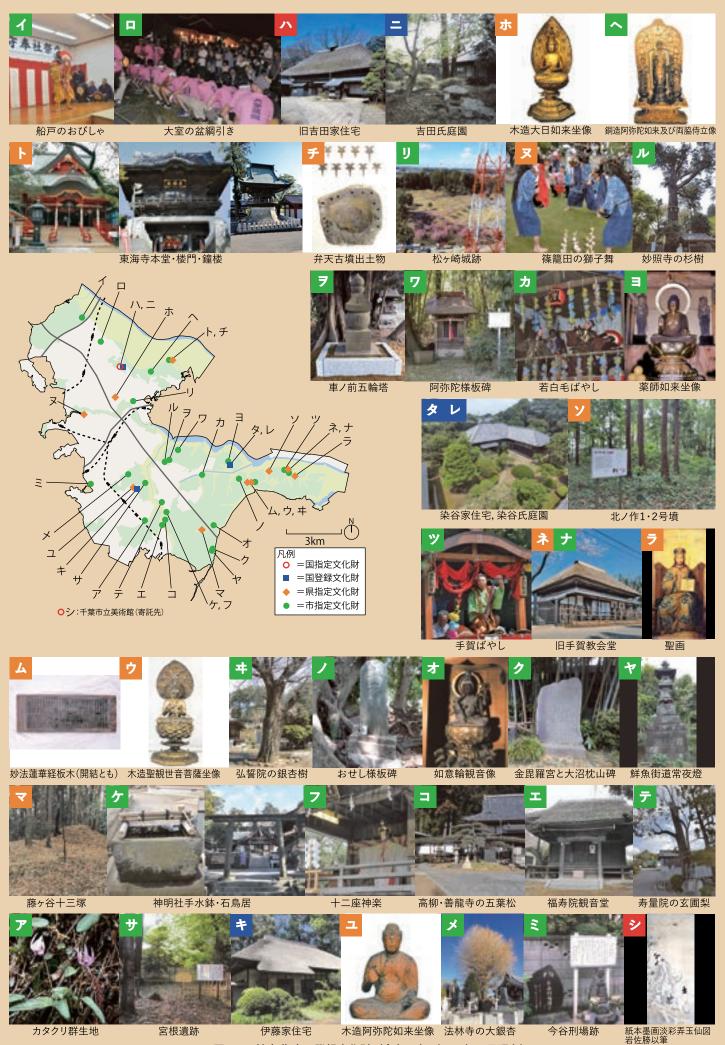


図 2-1:柏市指定・登録文化財(令和5年(2023)3月現在)

2-2. 未指定文化財の状況

市域には、指定等文化財のほか、多 くの未指定文化財がある。

このほか、土木遺産や産業遺産などに選定されたものがある(次頁参照)。 選定された文化財は、指定文化財に指定されているものと、未指定文化財のものがあるため、本書では、選定された文化財としては計数せず、いずれかの把握件数に含めて計数することとした(表 2-1, 2-4)。

未指定文化財は、令和5年(2023) 3月現在39,073件把握している(表2-4)。このうち、市が保有する近世古文書の点数が約10万点と他の文化財の点数を凌駕する。

また、旧石器時代から中世までの遺跡は500件を超え、特に旧石器時代・縄文時代の遺跡数は全国的に見ても有数である。

古墳群や城跡,野馬土手が保存されている公園も少なくなく,自然環境と文化財が一体となって景観を形作っている。これらの身近な文化遺産,例えば,利根川や利根運河,手賀沼の水運と,谷津・里山・畑や水田など,人々の暮らしと自然が織りなす文化的な景観は重要な文化遺産である。

表 2-4:未指定文化財把握件数

	女 2 寸・木 月 た ノ		
	分 類		把握件数
		社寺建築	392
	建造物	民家・店舗等	885
	建 超初	近代化遺産	45
		石造物	8,009
		絵画	420
有形文化財		彫刻	700
		工芸品	594
	美術工芸品	書跡・典籍	0
		古文書	236
		考古資料	28
		歴史資料	18,803
無形文化財	演劇,音楽,工芸技術	i	0
		民具	6,759
	有形の民俗文化財	信仰関連	891
民俗文化財		(絵馬・仏具・神具)	
民俗文化别		風俗慣習	66
	無形の民俗文化財	民俗芸能	30
		説話・伝承	40
	遺跡	集落跡•古墳•陣屋跡等	651
	医则.	戦争遺跡	6
記念物	街道・舟運		39
	名勝地		1
	動物,植物,地質鉱物		289
文化的景観			9
伝統的建造物	群保存地区		0
	湧水		146
その他	地名		19
	特産		15
	合計		39,073

令和5年(2023)3月現在



写真 2-1: 石造物と東葛印旛大師巡拝(撮影: 森かずお氏)

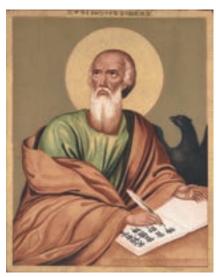


写真 2-2:旧手賀教会堂石版画イコン

観光や産業、土木技術、景観などの観点から見出された文化遺産

市内には、指定・登録の文化遺産の他に、観光や産業、土木技術、景観などの観点から選定されているものがあり、以下に記す。文化財以外の観点から広く文化遺産を捉えることも、今後保存・活用していく上で必要なことと思われる。また、「ちば遺産 100 選」や「ちば文化資産」は県民投票の結果を反映させており、市民目線のボトムアップ型文化遺産として注目される。

表 2-5: 観光や産業,土木技術,景観などの観点から見出された文化遺産

名 称	選定など	柏市に関係する選定・指定項目
歴史の道百選	文化庁	利根運河
推奨土木遺産	公益社団法人 土木学会	利根運河
近代化産業遺産	経済産業省	激しい産地間競争等を通じ近代産業へと発展した 利根川流域等の醸造業の歩みを物語る近代化産業遺産群
美しい日本の歴史的風土 準 100選	財団法人 古都保存財団等	利根運河
		手賀沼
		柏のカタクリ群生地
		布施弁天 (東海寺),旧手賀教会堂
房総の魅力 500 選	千葉県	水戸街道
		あけぼの山公園
		ねぎ, かぶ, ニラ
		鯉・鮒とその料理
千葉遺産 100 選	千葉県	北ノ作1・2号墳 (地域:利根川・江戸川と水運のゾーン内 文化遺産)
十朵退胜 100 選	十朵 宗	柏市内,手賀沼上流域の森林と水辺 (地域:利根川・江戸川と水運のゾーン内 自然遺産)
ちば文化的景観	千葉県	柏市「布施弁天」と「あけぼの山農業公園」の利根川流域の景観 (地域:利根川・江戸川と水運のゾーン内)
ちば文化資産	千葉県	利根運河
りは又化貝座	丁果県	手賀沼花火大会
伝えたい千葉の 産業技術 100 選	千葉県立 現代産業科学館	利根運河
		染谷邸の長屋門と土塁
柏市景観重要建造物· 景観重要樹木	柏市	藪崎邸の長屋門
14. 14. 1 ·		湯浅邸の長屋門







写真 2-4:あけぼの山農業公園

2-3. 文化遺産の概要と特徴

(1)類型毎の概要と特徴

①有形文化財

【建造物】

国指定重要文化財である「旧吉田家住宅主屋ほか 7 棟」の吉田家は代々花野井村の名主を務めた家柄である。このほか国登録有形文化財である「染谷家住宅主屋ほか 7 棟」の染谷家も鷲野谷村の名主を務めている。このほか、同じく国登録有形文化財である「伊藤家住宅主屋ほか 5 棟」も含め良好に当時の屋敷構えを残している。これらの屋敷は主屋のみならず附属屋を含めた建造物、庭園や屋敷林、畑地なども良好に残しており、建物と敷地が一体をなして歴史的価値を高めている。屋敷の所有者は、近世



写真 2-5:旧吉田家住宅

に名主を務めた家柄であったり、これに準ずる豪農で、吉田家や染谷家のほか未指定ではあるが長屋門を構える屋敷も少なくない。その屋敷構えは各集落において市域の景観を特徴づけるシンボリックな存在となっている。酒井根地区の有力者である齋藤家には、未指定の「まてや」と呼ばれる納屋や木小屋がNPO 法人下田の杜里山フォーラムによって維持管理されており、周辺の里山整備や地域の子どもたちへの学習支援などが精力的に行われている。昭和中期に建て替えられた主屋も当時としては珍しい建築技法がとられており、NPO の活動拠点としての活用が検討されている。

このほか,特に手賀・風早地区には未指定ではあるが歴史的な建造物が多く残されている。柳戸地区には,近世から世帯数が変わっていないコミュニティーがあり,良好に歴史的な建造物が残る集落として注目される。

また,近世に隆盛を極め「布施弁天」の名で知られる「東海寺本堂・楼門・鐘楼」や幕末から明治に至る過渡期の信仰のあり方をうかがい知ることができる「旧手賀教会堂」が千葉県指定有形文化財に指定されている。どちらも建造物としての価値とともに、土地の歴史を語る上で価値の高い建造物である。

柏市指定文化財には安政2年(1855)以降建築と推測される高柳の茅葺の堂「福寿院観音堂」が指定されている。他にも工作物として、明治の中頃まで使用された鮮魚街道沿いに残る「鮮魚街道常夜燈」が指定されており、交通の要衝であったことから道標や常夜燈が多いことも柏の特徴を示している。

石造物は,柏市指定文化財に「鮮魚街道常夜燈」「車ノ前五輪塔」「神明社手洗鉢・石鳥居」「阿弥陀様板碑」

「おせし様板碑」の5件がある。江戸時代に時の領主が寄進した神明社石鳥居と同様の鳥居が広幡八幡宮と布施弁天東海寺(破損倒壊)に所在するが未指定である。

未指定の石造物は、中世の供養塔である板碑が多数を占めることが特徴である。近世以降においては 講組織による信仰に伴い造立された弘法大師塔や地 蔵菩薩・六地蔵、路傍の至る所に見られる馬頭観音 が多い。また、庚申塔の数が卓越することが市域の 特徴である。



写真 2-6:福寿院観音堂

【絵画・彫刻・工芸品・古文書】

国指定重要文化財の「紙本墨画淡彩弄玉仙図 岩佐勝以筆」は近世初期に活躍した風俗画家岩佐又兵衛勝以(1578~1650)の代表作である。 江戸時代に名主寺嶋敏巧が開き文化人が集まった「摘翠軒」を元とする摘水軒記念文化振興財団が所有し、現在は千葉市立美術館に寄託されている。

千葉県指定文化財の「聖画」はハリストス正教会でイコンと呼ばれるもので茨城県笠間市出身の明治期の画家山下りんによる。主全能者(キリスト),至聖生神女(マリア),機密の晩餐の3点からなる。当初は旧手賀教会堂に掲げられていたが、現在は新教会堂に移されている。また、千葉県指定文化財「旧手賀教会堂」聖堂の王門には明治期の石版画イコンが収められていた(市所蔵)。彫刻の,萬福寺「木造阿弥陀如来坐像」、覚王寺「木造大日如来坐像」は平安時代、弘誓院「聖観世音菩薩坐像」は鎌倉時代の造立と推定されており、市内で特に古い彫刻作品である。柏市指定文化財の持法院「如意輪観音像」は中世末~江戸初期、善照寺「銅造阿弥陀如来及び両脇侍立像」は13世紀末から14世紀初めの造立と言われ、医王寺「薬師如来坐像」は長禄2年(1458)の春慶の銘が残る。これらの彫刻はいずれも寺院に安置され、通常は非公開である。技法や様式を現代に伝え、今でも信仰の対象となっている。

工芸品としては染色工芸家でいわゆる人間国宝の芹沢銈介作品が多数を 占める。これは、故・砂川七郎氏が自宅に「砂川美術工芸館」を設立し、 生涯にわたって芹沢作品のコレクションに情熱を注いだもので、閉館後の

平成7年(1995)に コレクションのほと んどが柏市に寄贈さ れたものである。

古文書は,近世に 名主を務めた有力者 などの家々から,10 万点を超える史料の 寄贈を受けており, その数は県内有数で ある。

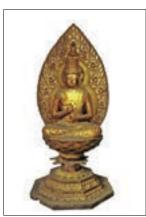


写真 2-8: 覚王寺 木造大日如来坐像

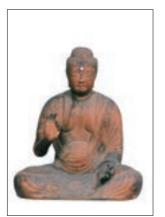


写真 2-9:萬福寺 木造阿弥陀如来坐像



写真 2-7:紙本墨画淡彩弄玉仙図 岩佐勝以筆(摘水軒記念文化振 興財団 提供)



写真 2-10: 聖画(主全能者)

【歴史資料・考古資料】

千葉県指定文化財歴史資料の弘誓院「妙法蓮華経板木(開結とも)」は、『無量義経』『妙法蓮華経』『仏 説観普賢菩薩行法経』の法華三部経を印刷するための版木で、室町時代の作と推定される。

柏市指定文化財考古資料の「弁天古墳出土物」が発見された弁天古墳は、布施弁天東海寺の南側に位置し、古墳の墳丘は利根川(古鬼怒川)の氾濫により下総台地から切断された独立丘陵を利用して築造されている。古墳は、全長約35mの北面する前方後円墳で、埋葬施設からは柏市指定文化財となった石枕・立花をはじめとした石製品や鉄製品が確認されている。古墳時代中期の5世紀第2四半期を中心とした時期と推定されている。未指定の考古資料としては、特に旧石器時代、縄文時代中期の遺物の出土量が卓越していることが特徴と言えよう。

②民俗文化財

【有形の民俗文化財】

有形の民俗文化財の殆どは、昭和53年~58年(1978~83)に実施された柏市民俗文化財調査の際に寄贈を受けた農具や生活道具である。また、平成16年(2004)に旧吉田家住宅の土地・建物とともに寄贈された民具も貴重な一括資料として保存されている。この民具の一部は、出前授業の教育資料として、学校教育において活用されている。

【無形の民俗文化財】

千葉県指定文化財「篠籠田の獅子舞」は、元禄(1688~1704)頃から始まったといわれ、様々な種類の舞から構成される。以前は地区内の神社や地主の家の屋敷で舞うこともあったが、現在は毎年8月16日の西光院施餓鬼の日に、境内で祖先の霊の供養と五穀豊穣・家内安全を祈願して演じられる。現在は保存会の手により実施されている。

「船戸のおびしゃ」は元和年中(1620年頃)に始まったといわれる。「おびしゃ」とは関東地方、特に千葉県に多くもとは弓を射て的に当てることでその年の豊穣を祈る行事である。船戸のおびしゃは、現在は的射はないが古い形態を持つ踊りが残る。「十二座神楽」は神明社の大祭に神楽殿で奉納され



写真 2-11:篠籠田の獅子舞



写真 2-12:十二座神楽

る神楽であり、また「若白毛ばやし」は鎮守の八坂神社の夏祭りに奉納される、「手賀ばやし」はアンバ様の祭礼で奉納される、おはやしである。「大室の盆綱引き」は元禄12年(1699)に青年たちが茅で太綱(力綱)を編み、暮六ツ(午後6時)を合図に引き合いの勝負を行いその年の吉凶を占ったのが始まりといわれ、五穀豊穣と精霊供養の願いをこめて行われる。これらは、今でも恒例の行事として地域の人々により引き継がれている。いずれも柏市指定無形文化財に指定されている。

白の巡礼衣装を身にまとい、弘法大師の札所を巡る「東葛印旛大師巡拝(送り大師)」(未指定)の一行は、五月の風物詩となっており、千葉県下の特徴と言えるが、中でも最大級の規模と言われる。宗教宗派を超えた地域の行事であり、地域間の交流を円滑にし、ヒトやモノ、情報の交換が盛んに行われてきた。

③記念物

【遺跡】

千葉県指定文化財には県内で2件が指定されている。「北ノ作1・2号墳」は手賀沼を北に臨む台地の上に所在する。両古墳とも千葉県における古墳出現期の3世紀後半~4世紀前半の古墳であるが、出土した遺物から2号墳より1号墳が先行して築かれたと考えられている。ともに前方後方墳である。この古墳の出現により、千葉県北西部地域でも古くから古墳文化が波及した地域の一つであることが判明した。「藤ヶ谷十三塚」は鎌倉時代頃から江戸時代にかけて作られた十三塚で、大きな親塚を中央に築きその両側に小塚を6個ずつ築く。13基の塚全てが完全に残るのは県下で当地区のもののみで全国的にも希少である。

柏市指定文化財には,幕末の嘉永5年(1852)造立で,鮮魚街道の中間地点で休憩所として賑わった藤ケ

谷地区に建てられた「金毘羅宮と大沼枕山碑」,また,今谷に位置し江戸末期~明治初期に罪人の首が切られたといわれる「今谷刑場跡」や中世城跡の「松ヶ崎城跡」等,柏市特有で当時の人々の生活を思わせるものが指定されている。

未指定の遺跡は、市域に508か所あり、特に手賀沼や利根川を臨む台地上に濃密に分布する。現在も、 手賀沼南岸の市街化調整区域には貝塚や古墳群、集落跡など、旧石器時代から中世にいたるまでの遺跡が 良好に残されている。

【街道、舟運】

いずれも文化財指定はないが、主要道路として水戸街道(陸前浜街道),成田街道,日光東往還,守谷街道があり、これらに伴う七里ヶ渡,布施河岸などの渡や河岸やその跡が所在する。そのほか生活道路なども含め坂や橋の名称が今も残る。また、「利根運河」が「歴史の道百選」、「選奨土木遺産」、「近代化産業遺産」「美しい日本の歴史的風土準 100 選」、「伝えたい千葉の産業技術 100 選」に選ばれている。

【名勝地】

国登録記念物(名勝)に2件登録されている。「旧吉田氏庭園」は国重要文化財の「旧吉田家住宅」の庭園で、前庭、書院庭園、新座敷庭園に区分され、居宅周囲の屋敷林と、南面に広がる芝地で構成されており、屋敷に配置された様々な性質の庭園や屋敷林が良好な状態で保たれ、幕末から近代の豪農の屋敷における庭園の構成や形態を伝える。「染谷氏庭園」は国登録有形文化財の「染谷家住宅」の庭園で、旧畑地の東部、主屋などの建物が建つ居住区域である西部、アラク山と呼ばれる屋敷林のある南部



写真 2-13: 染谷氏庭園

から構成されている。ほぼ往時の構成や歴史的空間が状態良く維持されており、幕末から近代にかけて整備された旧家の屋敷地の地割や庭園の様子をよく伝える。

【動物,植物,地質鉱物】

柏市指定文化財の「寿量院の玄圃梨」「高柳・善龍寺の五葉松」「弘誓院の銀杏樹」「法林寺の大銀杏」「妙照寺の杉樹」はいずれも古木であり、境内の建造物等と合わせて景観を構成している。カタクリは千葉県では北総台地の限られた場所に生育しており逆井に群生地が位置する。春になると紫紅色の小さなユリのような美しい花が咲く。



写真 2-14:高柳・善龍寺の五葉松



写真 2-15: 法林寺の大銀杏

④文化的景観

いずれも文化財指定はないが、柏市に多く見られる里山の風景の一つである谷津(柏市谷津保全指針に 定められた6か所の対象地)及び下田の杜、利根川沿いの水田(旧流作場)、手賀沼周辺の水田などがある。

(2) 地区毎の文化遺産

第1章で示したように、市内でも場所によって自然的特徴や河川や道、隣接する地域との関係など、地区毎に異なる特徴を持った文化遺産が見られる。地区毎の文化遺産を把握するため、本節では1-1(2)で示す6地区毎の各時代の主要な文化遺産について述べる。



図 2-2:6 地区位置図



写真 2-16:航空写真(手賀沼,大津川)

①田中地区

旧石器時代~弥生時代

旧石器時代の遺跡の分布と遺物量は県内屈指といえる。縄文時代は中期の大規模環状集落が密集しており、これも県内屈指である。また、前期には海水産の貝塚をもつ遺跡が多く見られる。

弥生時代になると極端に人間の痕跡は減少する。これまでに確認された集落は、花野井の香取神社遺跡で確認された後期の住居跡数軒のみ。「古鬼怒湾」には面さず、地金堀中流域に位置する。古墳時代前期前半になると外来系の土器(他地域の土器)の影響を受けた土器を出土する田中小遺跡が出現する。

古墳時代~奈良•平安時代

古墳時代中期末には花野井大塚古墳では畿内中枢との関わりを示す短甲や長刀,長剣などの武具が出土している。「香取内海」と大堀川に挟まれた台地上を中心として集落が展開する。畿内政権の影響を強く受けたとされる帆立貝式古墳と思われる古墳が、大青田の八幡山古墳群・大室のきつね山古墳群内にある。奈良・平安時代で注目されるのは、製鉄遺跡である船戸の花前遺跡で集落は9世紀にピークを迎える。製錬炉・精錬炉、鍛冶工房が確認され、鋳型やるつぼ、かなはしや鉄床石が出土している。

弥生時代から奈良・平安時代にかけての集落のあり方は県内他地域と比較すると、粗である。

中世

11世紀以降地区内の台地上からは生活の痕跡が確認されなくなる。次に見られるのは長覚寺の正和年間(1312~17)の板碑である。花野井の大洞院では,暦応4年(1341)銘の板碑があり,14~15世期の墓域が確認された花野井の寺前遺跡の年代と一致する。当地区の集落の基盤はこの頃に形作られたと考えられる。

近世

近世になると当地区は田中藩本多氏の領地となる。船戸村に陣屋が置かれ、船戸陣屋が統轄した地域を中相馬領と呼んだ。当地区で言うと大青田村、山高野村、船戸村、小青田村、大室村、正蓮寺村、花野井村がこれに当たる。このほか、幕府の天領と旗本の知行地で構成された。これらの村名は現在の大字名となっているが、地区内のそのほかの大字名は近代以降の地名で近世には大部分が小金牧であった。花野井村の名主を代々努めた吉田家は、小金牧の管理者である牧士も務め、在郷商人としても成長し、近代以降も活躍する。利根川の通航障害により新河岸が船戸、小青田、大室、花野井にできると、それぞれ花輪、加村、流山の河岸へ、荷物を陸揚げし陸路を輸送する新道ができる。当地区の村々は新道新河岸のお陰で潤うこととなるが、たびたび既存の河岸と新河岸同士の間で利益を巡る争いが起きた。

近現代

近代になると小金牧の開墾,利根運河及び鉄道の建設により発展する。小金牧は,戦時中に柏飛行場などの軍事施設が建設されると,戦後の開墾,アメリカ軍の接収・通信所の設置,昭和後期の通信所跡地開発,近年のつくばエクスプレス開通に伴う土地区画整理による新しいまちづくりと,目まぐるしく変化を続けている。



写真 2-17:大青田常夜燈



写真 2-18: 花野井大黒天

表 2-6:田中地区の主な文化遺産

時 代	代表的な文化遺産		文化遺産の分類
旧石器時代	【遺跡】中山新田遺跡, 聖人塚遺跡, 元割遺跡, 原山遺跡, 農協前遺跡, 大松遺跡, 富士見遺跡, 小青田駒形遺跡など	\Rightarrow	・県内屈指の遺跡の分布
縄文時代	【遺跡】出山遺跡,中山新田遺跡,大松遺跡,大室小山台遺跡など 【美術工芸品】大珠(大室小山台遺跡・出山遺跡)	\Rightarrow	・大規模環状集落跡 ・海水産の貝塚
弥生時代	【遺跡】香取神社遺跡	\Rightarrow	・後期の小規模なムラ
古墳時代	【遺跡】田中小。遺跡,塚崎古墳群(花野井大塚古墳),きつね山古墳群 尾井戸遺跡,尾井戸古墳,八幡山古墳群 【美術工芸品】花野井大塚古墳出土物,きつね山古墳出土物	\Rightarrow	・帆立貝式古墳・畿内政権との関係を示す短甲の出土
奈良・ 平安時代	【遺跡】花前遺跡,尾井戸遺跡【考古資料】製鉄関連遺物,二彩陶器,銅製杓子(花前遺跡),墨書土器「寺」(尾井戸遺跡)	\Rightarrow	・製鉄遺跡(花前遺跡の繁栄)
中世	【遺跡】猪山城跡,大室城跡,寺前遺跡,大室小山台遺跡,屋敷内遺跡, 円福寺,吉祥院,長覚寺,妙見神社(円福寺,花野井香取神社),船戸 山高野山神社,小青田駒形社・子ノ神社,正連寺香取神社【美術工芸品】 薬師如来像(吉祥院)【建造物】宝篋印塔(花野井薬師庵),板碑(長覚寺, 大洞院,円福寺,円通寺,医王寺)、【その他】妙見神像(大青田妙見神社), 妙見石塔・石祠(花野井香取神社,吉祥院,船戸天満宮,船戸医王寺)	⇒	・香取内海に面して築かれた城・板碑、仏像・相馬氏の妙見信仰
近世	【遺跡】富士塚(天満神社,大室香取神社),船戸陣屋跡(不動堂,三峰神社,一本杉善哉庵),小金牧<高田台牧>(野馬土手<こんぶくろ公園,流通経済大学附属柏高等学校前>),河岸(船戸,小青田,大室,花野井)【建造物】旧吉田家住宅,若柴観音堂(長覚寺),大黒像(大黒天)(船戸,大室,花野井,大青田),大黒塔(大青田,船戸山高野,正連寺)薬師坊,妙正神社,金毘羅神社,厳島神社,別雷神社,稲荷神社,大日庵,虚空蔵堂【民俗文化財】船戸のおびしゃ,大室の盆綱引き,下総三十三箇所観音霊場(29番長覚寺,31番円福寺,32番船戸観音堂),新四国八十八箇所,運河霊場【植物】大銀杏(大洞院)【景観】利根川沿いの水田(流作場)	⇒	 ・田中藩本多氏,船戸陣屋跡 ・野馬土手,牧士吉田家 ・旧吉田家住宅 ・利根川の洪水 ・利根川沿いの新河岸 (船戸,小青田,大室,花野井) ・船戸のおびしゃ・大室の盆綱引き
近現代	【遺跡】利根運河,柏飛行場(掩体壕,秋水燃料庫),柏高射訓練場(自衛隊),鴻ノ巣,柏陸軍病院(市立柏病院)【建造物】若柴常夜燈,大青田常夜燈,開墾関係碑(高田原開拓碑,小金原開墾碑,頌徳碑,千葉県神社碑,報真碑)【民俗文化財】利根運河霊場【地質】大青田貝層【その他】新利根湧水,大室湧水,柏地区開拓農協,大利根・東光・東利根開拓農協,「十余二」(地名),「十余二赤」(さつまいも),つくばエクスプレスの開通	⇒	・利根川舟運と利根運河・小金牧の開墾・利根川の治水利水・軍事施設跡・軍事施設跡の開墾・つくばエクスプレス沿線の土地区 画整理



写真 2-19:旧吉田家住宅歴史公園



写真 -20:大室の盆綱引き



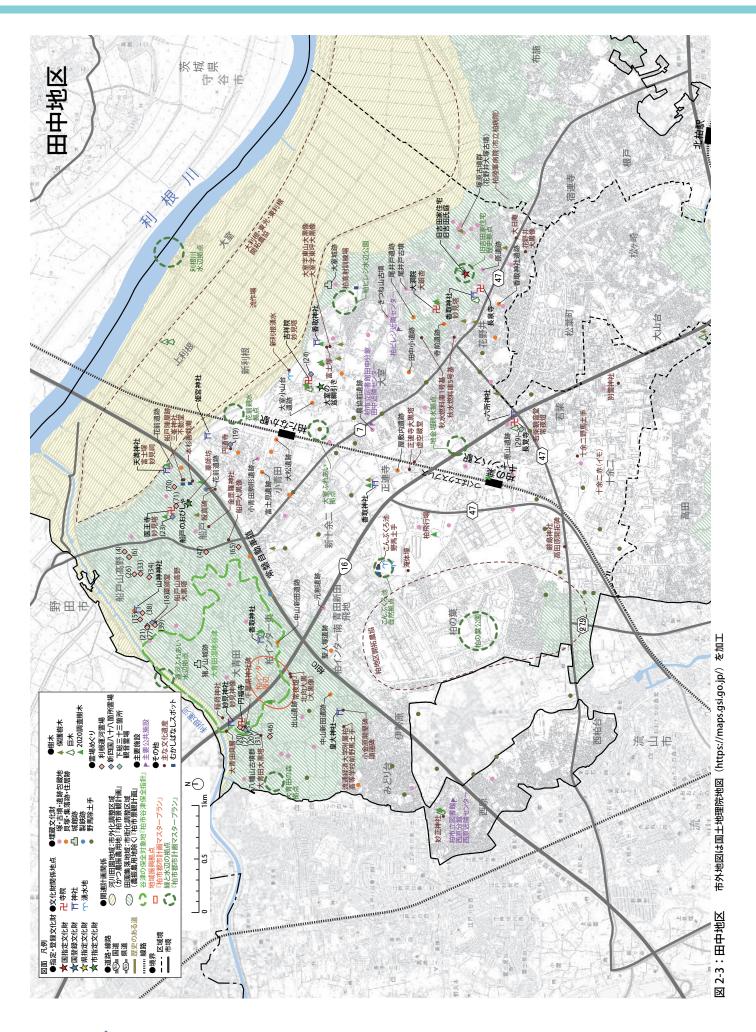
写真 2-21:若柴観音堂



写真 2-22:船戸のおびしゃ



写真 2-23:野馬土手



②富勢地区

旧石器時代~弥生時代

旧石器時代の遺跡は調査例が少ないため実態を把握できていないが、北柏の中馬場遺跡からは総数 500 点以上の旧石器が出土しており、石器製作の工房跡である可能性が指摘される。縄文時代は前期の集落跡である宿連寺遺跡や布施の山ノ田台遺跡の住居跡からハマグリやアサリを主体とする貝層が確認されている。布施にある中期の宮ノ内遺跡は大規模環状集落である可能性があり、大室小山台遺跡との類似性が指摘される。布施城山遺跡は市内でも数少ない後期から晩期にかけての集落で、市域における縄文時代の最後を語る遺跡と言える。

その後、当地区において人間の痕跡が確認できるのは弥生時代後期に入ってからである。しかも、中馬 場遺跡から後期の住居跡 8 軒が確認されたのみである。

古墳時代~奈良・平安時代

古墳時代前期に入ると、布施の宿ノ後遺跡で比較的大きな集落が営まれる。中馬場遺跡では古墳時代中期に集落が開始され、次第に集落規模が大きくなり、平安時代にピークを迎える。「茜津駅」の推定地とも言われ、集落からは銙帯金具が出土するなど注目される。根戸高野台遺跡からは下総国分寺系の軒平瓦が、宿ノ後遺跡からは三彩陶器が出土しており特筆できる。

弥生時代から奈良・平安時代にかけて時代が下るごとに集落規模は大きくなるが、11世紀以降地区内の台地上からは生活の痕跡が確認されなくなる。

中世

中馬場遺跡からは一部 12 世紀代の遺物が確認されるようになる。その後 13 世紀から近世まで継続する県下では類例の少ない遺跡として知られる。常滑や瀬戸産の陶器が多く出土し、15 世期前半にピークを迎える。遺跡は堀や溝で区画された屋敷地の集合体で構成され、街道沿いの「宿」であった可能性が指摘される。東側に隣接して法華坊館跡、南には戦国時代の根戸城跡(いずれも我孫子市)があり、中世から近世にかけて水陸交通の要衝としてこの地域の重要な拠点であったと考えられる。

正安元年(1299)開創とされる善照寺には市指定文化財銅像阿弥陀如来及び両脇侍立像は 13 世紀末から 14 世紀初めの頃の製作とされることから,創建時からの像と見られる。板碑は宿連寺普門院の延慶 2 年(1309)のものが一番古く,中馬場遺跡からも正和年間(1312~17)のものが出土している。当地区においても集落の基盤はこの頃に形作られたと考えられる。また,相馬氏の守護神である妙見菩薩を祀る妙見社(布施字古谷・土谷)と北星神社(我孫子市)がある。

近世

近世になると当地区は相馬郡に属した。幕末期,布施村は田中藩領と幕府領,根戸村は幕府領,宿連寺村は大沢氏の知行地であった。根戸には水戸街道が通り水戸藩関係者の通行が頻繁にあったという。また,街道沿いには榎が植えられ並木が行く人の道標となっていたという。また,布施には江戸時代以前から常陸方面へ向かう「七里ヶ渡」と呼ばれる渡し場があり,元和2年(1616)に幕府が乗船場として定めると,流山を経由して江戸への物資を輸送する荷揚げ場として布施河岸が成立する。江戸時代中期以降,利根川舟運の発展とともに布施の界隈は賑わい,往来する人々の信仰を集めた布施弁天東海寺は最も繁栄する。布施村は東海寺の門前町として市内最大の集落へと変貌を遂げていくが,旧橋本旅館は多くの参拝客を受け入れるため幕末に創業した。

近現代

昭和12年(1937) 陸軍柏飛行場の建設が決まると、翌年根戸に高射砲連隊第2連隊が移駐してくる。 戦後西部消防署根戸分署として利用された建物は陸軍の馬糧庫であると言われていたが、近年の調査で、 この建物が照空予習室と呼ばれる建物で、柏と加古川にしか現存しない希少な建物であることがわかった。 戦後、昭和44年(1969) に本市で最初の本格的工業団地である根戸工業団地が完成する。昭和46年 (1971)根戸に北柏駅が旅客営業を開始すると、北柏駅南口土地区画整理事業が始まり、産業都市とベッドタウンの二つの顔を合わせ持つ地区として駅周辺は急激に発展する。一方で、布施常夜燈から布施弁天東海寺までの街道沿いは開発の波に晒されず、街道沿いに貼り付く農家の佇まいは、かつての宿場町の雰囲気を今に残している。

表 2-7: 富勢地区の主な文化遺産

時 代	代表的な文化遺産		文化遺産の分類
旧石器時代	【遺跡】中馬場遺跡,花戸原遺跡	\Rightarrow	・遺跡の分布
縄文時代	【遺跡】布施城山遺跡,山ノ田台遺跡,宮ノ内遺跡,宿連寺遺跡	\Rightarrow	・大規模環状集落跡・貝塚の存在
弥生時代	【遺跡】中馬場遺跡	\Rightarrow	・後期の小規模なムラ
古墳時代	【遺跡】宿ノ後遺跡,中馬場遺跡,弁天古墳 【美術工芸品】弁天古墳出土物	\Rightarrow	・香取内海に分布する石枕・立花
奈良• 平安時代	【遺跡】宿ノ後遺跡, 中馬場遺跡, 花戸原遺跡, 根戸高野台遺跡, 殿台遺跡, 茜津駅(推定地)【美術工芸品】軒平瓦(根戸高野 台遺跡), 銙帯金具(中馬場遺跡), 三彩陶器(宿ノ後遺跡)	\Rightarrow	・古墳時代後期からの大集落・古代東海道と集落の発展・平将門関係資料
中世	【遺跡】 中馬場遺跡, 法華坊館跡, 善照寺, 妙見神社 (布施字古谷・ 土谷) 【美術工芸品】銅造阿弥陀如来及び両脇侍立像 (善照寺) 【建造物】板碑 (普門院, 中馬場遺跡)	\Rightarrow	・相馬氏の妙見信仰・香取内海に面した城・物流の拠点的集落「中馬場遺跡」・板碑,仏像
近世	【遺跡】七里ヶ渡,布施河岸,水戸街道【建造物】東海寺本堂・楼門・鐘楼・石鳥居・百庚申,呼塚常夜燈,布施常夜燈,旧橋本旅館,布施香取神社,布施妙見,八坂神社,常夜燈,鍬形紹甫墓塔,小林一茶俳文碑,筆子塚,水神宮石祠,石塔群(七里ヶ渡への道),根戸庚申塔群【民俗文化財】八朔相撲,東葛・印旛大師(4番呼塚太子堂),北相馬大師(26番南龍寺,67番薬師堂,68番東海寺,85番円性寺)【その他】和田沼の鴨網猟	\Rightarrow	・田中藩本多氏,布施弁天石鳥居・旧水戸街道,守谷街道・利根川舟運,七里ヶ渡・布施河岸,うなぎ道・布施弁天石鳥居・和田沼の鴨猟
近現代	【遺跡】高射砲第2連隊(営門,歩哨所,照空予習室) 【その他】柏駅の町場化,利根川舟運,宿連寺湧水,高野台開 拓農協	\Rightarrow	・利根川の治水・利水・軍事施設跡・軍事施設跡の開墾・工業団地(根戸)



写真 2-24:七里ヶ渡跡



写真 2-25:旧橋本旅館



写真 2-26:石枕・立花



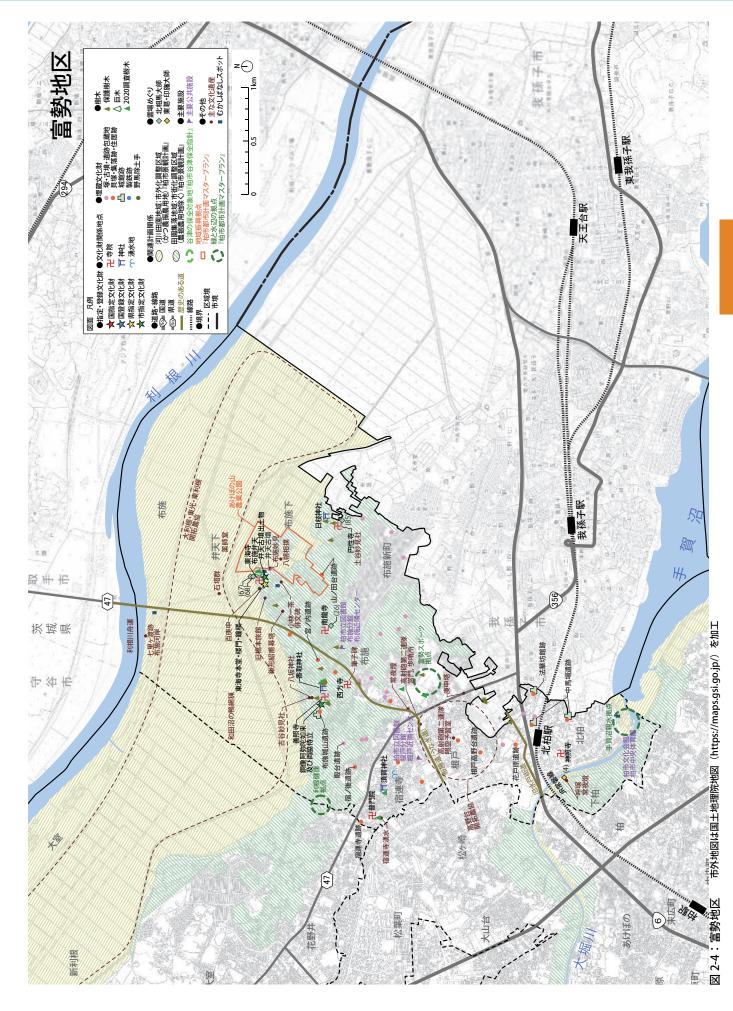
写真 2-27:善照寺銅造阿 弥陀如来及び両脇侍立像



写真 2-28: 布施弁天東海寺 本堂



写真 2-29:高射砲第 2 連隊照空予習室



③柏地区

旧石器時代~弥生時代

柏駅や南柏駅周辺などの市街地は、調査体制の整備されていなかった戦後早くに開発されたため、総じて発掘調査を実施しておらず、実態を把握できていない地域が多い。旧石器時代は調査例がなく、縄文時代も調査例が少ないが、前期の松ヶ崎遺跡の住居跡からハマグリやアサリを主体とする貝層が確認されている。上根郷遺跡では、後期に出土する貝が、海水産の貝から汽水産の貝に変化したことがわかった。

当地区においても、弥生時代の様相は同様である。名戸ヶ谷の柏口遺跡から後期の住居跡が確認されており、一辺 10 m を超える大型のものもある。呼塚遺跡、山田台遺跡においても小規模ながら集落が確認されており、市域における集落の相対数は多い地区である。

古墳時代~奈良・平安時代

古墳時代出現期になると突如、環濠で囲まれた大規模な集落である戸張一番割遺跡が出現する。遺跡からは外来系の土器や青銅製品が出土し、環濠の外側の墓域には下総地域最古の前方後方墳が確認された。同様の方形環濠をもつ集落は、呼塚遺跡、戸張城山遺跡でも確認されており、県下で他に類例を見ない。呼塚遺跡は戸張一番割遺跡に後続して中期まで存続し、拠点的な集落となる。古墳時代後期以降、奈良・平安時代を通じて遺跡の分布は極めて希薄となり、大堀川対岸の富勢地区とは対照的である。

中世

当地区においても、11世紀以降生活の痕跡が確認されなくなる。次に見られるのは、篠籠田地主神社にある文永11年(1274)銘の板碑は県下2番目の古さを誇る。このほか、松ヶ崎、高田、篠籠田、戸張からは13~14世紀代の古手の板碑が多く見られる。松ヶ崎覚王寺には12世紀の作とされる木造大日如来坐像(県指定文化財)がある。戦国期に入ると大堀川や手賀沼に面して高田城(匝瑳氏)、戸張城(戸張氏)、松ヶ崎城が次々と築かれ、水上交通の要衝として監視の目を光らせることになる。

近世

近世になると当地区は相馬郡に属した。幕末期,篠籠田村、松ヶ崎村は田中藩領、柏村は幕府領、戸張村は幕府領と三橋氏の知行地であった。当地区にも旧水戸街道が通り、街道沿いには榎の並木が植えられ、呼塚や現在の柏駅前は茶屋や菓子屋が立ち並んでいたという。市域に伝わる「水戸屋稲荷物語」という昔話は、近年まで街道筋にあった水戸屋という茶屋での話である。

呼塚と戸張には河岸があり、いずれも幕府非公認の河岸であったが、陸揚げされた物資を流山や加村へ馬で運んでいた。この時、大堀川沿いの陸路は「うなぎ道」と呼ばれている。手賀沼でとれたうなぎを江戸に運んだためそう呼ばれるが、うなぎの鮮度を保つため「水切場」で水に浸し、生気を取り戻させた。この水切場は高田と野々下(流山市)にあったという。布施河岸で陸揚げされた物資もうなぎ道を通った。呼塚河岸は幕末のころ、成田詣でや銚子・佐原方面へ向かう旅人の乗船場にもなっていたという。

近現代

近代になると、それまで小さな寒村であった柏村付近は、小金牧の廃止に伴い開墾され、柏駅が設置されると、急激に町場化することとなる。昭和に入り、現在の豊四季台団地に柏競馬場、柏ゴルフ場ができると、現在の気象大学校付近には柏競馬場前停留場もできるなど多くの観客で賑わいを見せた。しかし、時局が悪化すると憲兵隊柏分遣所や、第4航空教育隊などが作られ、競馬場・ゴルフ場は軍需工場へと姿を変え、レジャー客で賑わった街は、軍人で賑わう街となってしまった。

戦後の昭和 28 年 (1953) 南柏駅が設置されると西口側で土地区画整理が実施され、昭和 31 年 (1957) に柏駅西口が開設されると、柏駅西口土地区画整理が始まる。昭和 39 年 (1964) には豊四季台団地の入居が開始され、全国的に見ても早い時期に東京のベッドタウンと化していく。昭和 48 年 (1973) に柏駅前再開発とともに商業地として繁栄を遂げる。再開発後約 50 年が経ち新しいまちの再編が進められつつある。

表 2-8:柏地区の主な文化遺産

時代	代表的な文化遺産		文化遺産の分類
縄文時代	【遺跡】鴻ノ巣遺跡,松ヶ崎遺跡,上根郷遺跡	\Rightarrow	・後期の貝塚
弥生時代	【遺跡】呼塚遺跡,笹原遺跡	\Rightarrow	・後期の小規模なムラ
古墳時代	【遺跡】戸張遺跡群(戸張一番割遺跡,戸張城山遺跡,不動山遺跡, 刈込台遺跡),呼塚遺跡,天神台遺跡,腰巻古墳群,駒込遺跡【美 術工芸品】戸張一番割遺跡出土物(銅鏡,銅鏃など)		・外来系の土器 ・古墳時代出現期の古墳 ・方形環濠をもつ集落
奈良・ 平安時代	【遺跡】日本橋学園遺跡【美術工芸品】木造大日如来坐像(覚王寺) 【地名】布施,志子多谷(篠籠田),手下水海(手賀沼)	\Rightarrow	・平安仏
中世	【遺跡】松ヶ崎城跡,高田城跡(匝瑳氏),戸張要替(要害)・戸張城跡(戸張氏),万松寺,長全寺,高田熊野神社【建造物】板碑(地主神社,松ヶ崎香取神社)	\Rightarrow	・香取内海に面した城・板碑、仏像
近世	【遺跡】東中新宿遺跡、呼塚河岸、戸張河岸、水戸街道、日光東往還、うなぎ道、高田の水切場、小金牧<上野牧>野馬土手(日立グランド前、豊四季第一緑地、ごろが池)、上野牧の捕込跡、富士塚、三郡境の不動尊跡【建造物】長屋門(増田家)、稲荷神社、神明神社、八幡神社、金毘羅神社、弁財天、芳野金陵墓所、高田百庚申、大山台百庚申、篠籠田大黒塔【民俗文化財】篠籠田の獅子舞、東葛・印旛大師(1番・60番長全寺、19・42番 正光寺、63番 豊町念仏堂)、新四国八十八ヶ所霊場(22番 聖徳寺、27番 浄善寺、28番 赤城社、29番 西光院)、ごろが池の弁天様(昔話)、相ばやし(昔話)【植物】松ヶ崎一本松【その他】芳野金陵		・旧水戸街道,日光東往還, うなぎ道 ・呼塚河岸,戸張河岸 ・篠籠田の獅子舞等 ・手賀沼の開墾,洪水 ・小金牧,野馬土手 ・大師講
近現代	【遺跡】小金牧の開墾,第4航空教育隊(営門)【建造物】四号稲荷神社,小松翁稲荷神社,別雷・稲荷神社,一本松稲荷神社,日立稲荷神社,開墾関係碑(庚塚新墾記,木釘記念碑,開拓記念碑,公爵岩倉報恩碑,豊四季開拓百年記念碑),豊四季台団地,日立製作所柏工場,八木重吉詩碑,東葛飾中学・高等学校旧門,柏忠霊塔【その他】松ヶ崎湧水,豊四季(地名),木釘,カブ(特産),鴻の巣開拓農協,常磐線・東武野田線の開通		・鉄道の開通,柏駅周辺の町場化・関東の宝塚構想・軍事施設跡・軍事施設跡の開墾・荒久山・豊四季台団地



写真 2-30:篠籠田の獅子舞



写真 2-31:覚王寺 木造大日如来坐像



写真 2-32:戸張地区公園



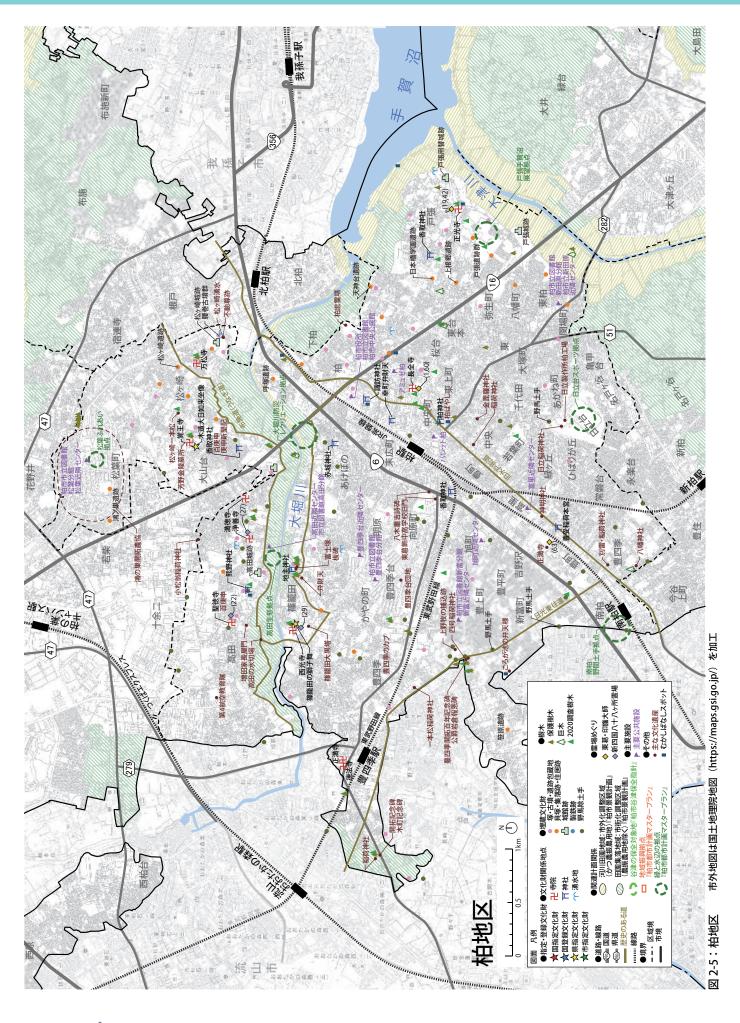
写真 2-33:松ヶ崎城跡



写真 2-34: 戸張一番割遺跡 銅鏡



写真 2-35:呼塚常夜燈



④土地区

旧石器時代~弥生時代

旧石器時代の調査は光ヶ丘遺跡の調査のみで、実態を把握できていない。縄文時代も調査例が少ないが、 県下屈指の規模を誇る中期後半の集落跡、林台遺跡がある。遺跡からは高さ80cmを超える大きな土器 が出土している。対岸には後続する後期の中島遺跡があるが、林台遺跡とは対照的に低標高の北向斜面地 に立地する。

弥生時代の集落のあり方は当地区も共通である。後期に入ってから,新柏の柏口遺跡,東逆井の第六天 遺跡で小さな集落が見られる。

古墳時代~奈良・平安時代

弥生時代に見られた遺跡は、弥生時代末には一旦途切れ、古墳時代前期に外来系の土器を出土する本格的な集落として展開するが、中期には縮小し、その後途絶える傾向が見られる。この傾向は、柏地区の戸張城山遺跡、山田台遺跡と同様であり、特徴的である。

当地区においては、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての集落跡は、現在のところ確認されていないが、平安時代である12世紀の製作と見られる木造阿弥陀如来坐像が萬福寺阿弥陀堂(寛永年間建築)に安置されている。また、萬福寺に程近い増尾字本郷には、近年まで存在した妙見堂が所在した。お堂に祀られていた妙見菩薩立像(江戸時代の作)は萬福寺阿弥陀堂内の厨子に安置されている。

中世

『相馬文書』文永9年(1272)の関東下知状に「御厨内増尾村」との文言があり、鎌倉時代に増尾村が相馬氏の所領であったことがわかる。このほか、伝 観音寺出土の建治2年(1276)銘の板碑は県下4番目に古いものである。名戸ヶ谷にある法林寺の大銀杏は市指定文化財となっているが、康応年間(1389年頃)越後の比丘尼が種をもたらしたとの言い伝えがある。

戦国期に入ると、萬福寺のすぐ南側に 15世紀後半の築城とされる幸谷城館が築かれる。また、16世紀後半の築城とされる増尾城が幸谷城館の北方約 600 m の位置に築かれる。日蓮宗の名刹・本土寺(松戸市)に残されている『本土寺過去帳』に、文明 17年(1485)「コウ城ニテ 佐久間兄弟打死 羽鳥打死 三谷小二郎其外打死諸人成仏」とあり、幸谷城館跡が「コウ城」の比定地となっている。また、文明 10年(1478)「匝瑳勘解由殿 法名妙勘外二名 高田 於境根原打死諸人等皆皆成仏道云々」と記載があり、境根原(酒井根〈現・光ヶ丘〉)で一大合戦があったことがわかる。この戦に勝利した太田道灌は両軍の戦死者の首や胴体を集めて葬ったと言われていることから、光ヶ丘団地の公園内に残る塚は首塚・胴塚と呼ばれている。

近世

近世になると当地区は相馬郡に属した。幕末期、増尾村、名戸ヶ谷村、藤心村、逆井村、酒井根村、根木内村、中新宿村は幕府領、田中藩領、旗本の知行地、八幡神社領と正に「碁石まじり」の状態であった。増尾の広幡八幡神社にある石鳥居は、当地区を広く治めた田中藩本多氏が奉納したもので、同じものが、塚崎の神明社、布施弁天東海寺(倒壊)にある。藤心の道路の辻には目印となる上人塚がある。塚の裾には庚申塔があり、道標を兼ねている。碑面には「東 たかやなぎ・ふじがや 道」、「西 さかさゑ・こがね・まつど 道」、「南 やはた・ぎょうとく 道」、「北 かしわ・ふじごころ・ふせ」とある。行徳(市川市)への道は、村人が薪や農産物を行徳で塩や海産物と交換する(塩どっけ)ためにも使われていたため、「塩どっけ」とも呼ばれていた。「塩どっけ」は昔話として語り継がれている。

近現代

戦後の時点で地区内に存在した駅は、増尾駅と逆井駅である。本市ではじめての完結型大規模団地である光ヶ丘団地の入居が始まったのは、昭和32年(1957)であった。最寄駅は南柏駅であったが、団地の完成をきっかけに東口が開設された。増尾駅、逆井駅周辺は中小企業によるミニ開発が中心であったが、

1980年代に逆井・藤心の土地区画整理が行われる。また、昭和58年(1983)に新柏駅が開設されると、名戸ヶ谷の土地区画整理も同時に進められた。

表 2-9:土地区の主な文化遺産

時 代	代表的な文化遺産	文化遺産の分類
旧石器時代	【遺跡】光ヶ丘遺跡	⇒・遺跡の分布
縄文時代	【遺跡】宮根遺跡,林台遺跡,中島遺跡	⇒ ・大規模集落跡 ・貝塚の存在
弥生時代	【遺跡】宮根遺跡,柏口遺跡,大六天遺跡	⇒・後期の小規模なムラ
古墳時代	【遺跡】柏口遺跡,大六天遺跡,林台遺跡	⇒・外来系の土器
奈良・ 平安時代	【遺跡】林台遺跡【美術工芸品】木造阿弥陀如来坐像(萬福寺) 【その他】宗寿寺	⇒・平安仏
中世	【遺跡】幸谷城跡, 増尾城跡, 境根原合戦場(首塚, 胴塚), 慈本寺, 行念寺, 妙見堂跡【美術工芸品】木像地蔵菩薩坐像(慈本寺), 木 造妙見菩薩立像(萬福寺)【建造物】板碑(観音寺, 萬福寺)【その他】 法林寺の大銀杏 【地名】ますを・益尾(増尾), 藤意(藤心), 境根(酒井根)	・相馬氏の妙見信仰 ・大津川に面して築かれた城 ・酒井根原の合戦場跡 ・板碑,仏像
近世	【遺跡】富士塚(廣幡八幡宮,逆井),塩の道(庚申塔(道標),昔話「塩どっけ」),上人塚,野馬土手(下田の杜)今谷刑場跡【建造物】伊藤家住宅,長屋門(藪崎家,木村家),齋藤家住宅まてや,今谷上町稲荷神社,廣幡八幡宮石鳥居,薬師堂,不動尊,名戸ヶ谷百庚申,南増尾百庚申,酒井根大黒塔【美術工芸品】木造妙見菩薩立像(万福寺)広畑八幡神社石鳥居【民俗文化財】逆井囃子,酒井根八十八箇所霊場,東葛・印旛大師(9番 慈本寺,43番少林寺,48番 逆井弁財天,50番名戸ヶ谷観音堂跡,53・67番万福寺,58番名戸ヶ谷池田庵,69番観音寺,78番宗寿寺,80番法林寺),新四国八十八ヶ所霊場(58番行念寺,67番万福寺,68番少林寺,69番観音寺,78番宗寿寺,80番法林寺),旧吉橋大師(58番行念寺),下総三十三箇所観音霊場(23番観音寺,26番法林寺)【景観】酒井根下田の杜緑地	・藤心陣屋跡、広幡八幡宮石鳥居 ・藤心周辺の道標、塚 ・逆井囃子 ・大師講 ・伊藤家住宅 ・野馬土手
近代	【遺跡】高島野十郎アトリエ跡地【建造物】第 93 師団司令部(現 麗澤大学貴賓室),齋藤家住宅主屋,行念寺本堂,西方寺【区画整理】 光ヶ丘団地【植物】カタクリ群生地【湧水】名戸ヶ谷湧水	⇒・光ヶ丘団地



写真 2-36: 南増尾 百庚申



写真 2-37:逆井囃子



写真 2-38:境根原合戦場(胴塚)



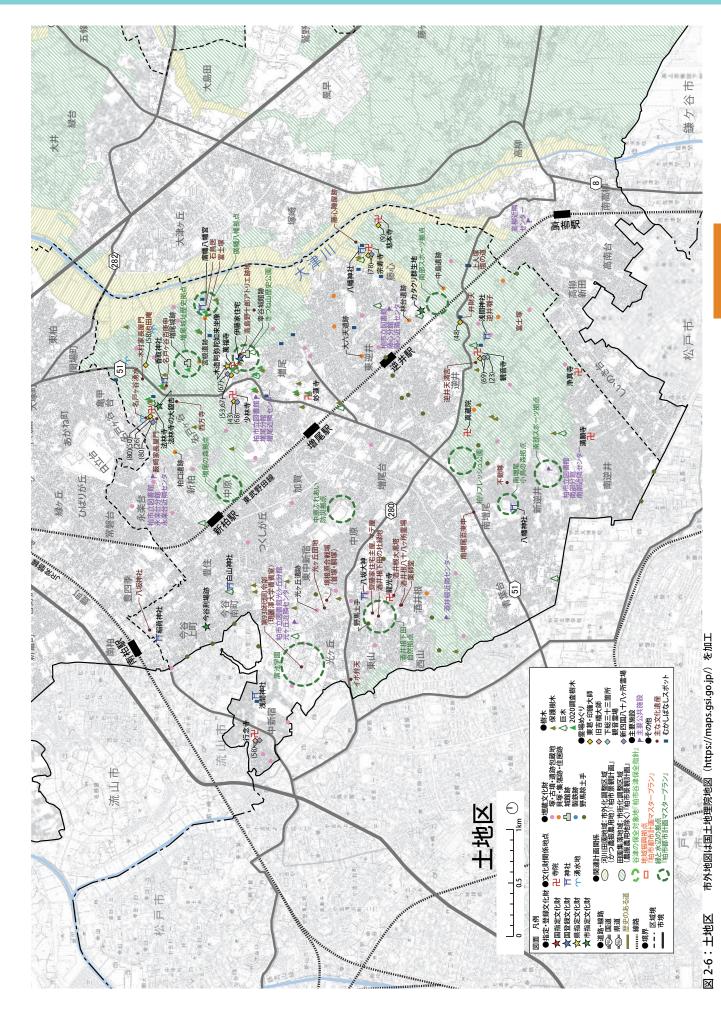
写真 2-39:伊藤家住宅



写真 2-40:幸谷城館跡



写真 2-41: 齋藤家住宅まてや



5 風早地区

旧石器時代~弥生時代

旧石器時代の調査は大井の天神向原遺跡のみである。縄文時代は手賀の杜の湖南台遺跡群で早期から後期にかけての集落跡が確認されている。大井の天神向原遺跡から前期の集落跡が確認され、追花遺跡からは中期の集落が確認されている。追花遺跡は調査面積が少ないため推測であるが、中期の大集落である可能性が指摘される。大井貝塚は古くから注目される遺跡であるが、調査例がない。地表面採集した資料から、貝は汽水種のヤマトシジミが主体で、土器は後期~晩期の土器が主体であるという。

他地区と同様に弥生時代の集落は、大井東山遺跡において後期の住居跡が2軒確認されたのみである。

古墳時代~奈良・平安時代

弥生時代の集落から少し間を開けて、古墳時代前期の外来系の土器を出土する集落が大井の浅間山遺跡である。集落は前期後半から中期が主体で、出土した手焙型土器は特筆される。集落のある台地先端部は、大津川が手賀沼に注ぐ河口付近を北に望む場所に位置するが、ここに前期後半の前方後方墳である浅間古墳が所在する。また、対岸には古墳時代出現期の戸張一番割遺跡、戸張城山遺跡などの戸張遺跡群が対峙する。古墳時代前期から中期にかけての集落である沼南台遺跡群は、大津ヶ丘団地の造成時に確認されているが詳細は不明である。大井東山遺跡からは古墳時代後期を主体とする集落が確認されているが、これは、船戸古墳群、箕輪古墳群の基盤となる集落である。

大井東山遺跡は奈良・平安時代まで多少断絶があるが継続して営まれた集落で、三彩陶器や皇朝十二銭 などの高級品が出土するなど注目される。また、仏堂施設(内陣建物)や「新生寺」と墨書された土器の 存在から、官営の国分寺や郡寺とは別の「村落寺院」であることが指摘され、このころには仏教が末端まで広まっていたことを示す。

また、大井の地名が古代まで遡ること、また、平将門の影響下にあった地域であること、将門に関する 詳細は先に述べた。

中世

風早地区においても、11世紀以降、人々が残した痕跡は確認されていない。次に確認されるのは、文永2年(1265)紀年銘の「恩田家板碑」である。福満寺の境外地である船戸にある「阿弥陀様板碑」も紀年銘はないもののその類似性から同年代のものとみられている。当地区においてもこの頃に現在の集落の基盤が成立したと考えられる。

戦国期に入ると、小金城(松戸市)を本拠とする高城氏が15世紀後半~16世紀前半に箕輪城を築城 したとされる。このほか大井追花城、藤ヶ谷中上城などが水上交通路に沿って築かれる。

近世

近世になると当地区においても幕府領、田中藩本多氏の領有地、旗本の知行地で構成された。当地区は近世に交通上重要な場所となる。藤ヶ谷にひときわ高い常夜燈があるが、これは布佐河岸から松戸河岸へ向かう陸路約7里の中間地点の目印として明治12年(1879)に建てられたものである。この陸路は「鮮魚街道」と呼ばれ、主に銚子沖で採れた魚類を江戸の魚河岸に最短時間で運ぶ道で、往時は鮮魚を江戸へ運ぶ人々が往来し繁栄したという。鮮魚街道が金山落しを渡る「矢の橋」に架けられていた橋梁材には、元文2年(1738)の紀年銘があり、現存する最古の橋梁材として文化課が管理している。また、小金牧を構成する中野牧が風早村に広がっていたが、現在、その面影を残すものは滅失している。

近現代

太平洋戦争の戦局が悪化し、米軍大型爆撃機 B29 が関東地方への爆撃を開始した昭和 19 年 (1944)、藤ヶ谷飛行場の建設が開始される。翌年には飛行場は完成したが、工事には風早村や鎌ヶ谷村 (鎌ヶ谷市)の村民や国民学校の児童など約 1,200 人が動員されたという。戦後、米軍に接収され白井基地として米軍の管理下におかれるが、騒音や航空機の墜落、産業への被害、米兵による犯罪や事故など多くの問題が

発生した。昭和30年代(1955~64)に基地返還運動が展開されると昭和35年(1960)に白井基地は日本に返還され、海上自衛隊下総航空基地として現在に至る。

昭和40年(1965)に沼南工業団地分譲開始,昭和53年(1978)には大津ヶ丘団地入居が開始,平成8年(1995)に風早工業団地が分譲が開始される。近年,これらの団地に隣接して沼南中央地区土地区画整理事業が実施され、大型商業施設がオープンした。このほか、高柳駅周辺も宅地開発が進んでいるが、これらの地域以外は良好に自然と文化財を残している。

表 2-10: 風早地区の主な文化遺産

時 代	表 2-10:風早地区の主な文化遺産 		 文化遺産の分類
旧石器時代	【遺跡】天神向原遺跡	\Rightarrow	・遺跡の分布
縄文時代	【遺跡】追花遺跡,大井貝塚		・大規模集落跡・貝塚の存在・後期の貝塚
弥生時代	【遺跡】大井東山遺跡	\Rightarrow	・後期の小規模なムラ
古墳時代	【遺跡】浅間山遺跡, 沼南台遺跡群, 大井東山遺跡, 浅間古墳, 船戸 古墳群, 箕輪古墳群	\Rightarrow	・外来系の土器
奈良・ 平安時代	【遺跡】大井東山遺跡,天神向原遺跡,六盃内遺跡【美術工芸品】三彩陶器,皇朝十二銭,墨書土器「新生寺」(大井東山遺跡),【地名】大井郷(大井)【その他】神明社,寿量院,福満寺,如意寺,鏡の井戸(福満寺)	\rightarrow	・製鉄遺跡 ・村落寺院 ・大井津の伝承と集落の発展
中世	【遺跡】箕輪城跡,箕輪如意寺遺跡,大井追花城跡,高柳城跡,藤ヶ谷城跡,藤ヶ谷中上城跡,高柳城跡,高柳谷中台砦跡,妙照寺,高柳善龍寺【美術工芸品】如意輪観音像(如意寺)【建造物】板碑(大井恩田家,阿弥陀様板碑,福満寺),車ノ前五輪塔,宝篋印塔(箕輪城出土)【地名】箕輪,大井,高柳,藤ヶ谷	\Rightarrow	・平将門関係遺跡・相馬御厨と神明社・大津川に面して築かれた城・板碑,仏像
近世	【遺跡】富士塚(高柳、藤ヶ谷)、鮮魚街道(常夜燈、金毘羅宮と大沼 枕山碑)、藤ヶ谷十三塚【建造物】福寿院観音堂、神明社本殿、石鳥居、手洗鉢、福満寺鐘楼堂、善龍寺本堂、浅間神社、御嶽神社、愛宕神社、不動明王不動堂、長屋門(恩田家、中基家、広瀬家、森家、守家、大久保家、酒巻家、浜田家)、矢の橋(橋梁材)、みよしろ大仏、かわうその碑、大井庚申塔群、大津ヶ丘石塔群【民俗文化財】十二座神楽(神明社)、オゴゼン、オビシャ(大島田、高柳)、福満寺八十八箇所霊場、東葛・印旛大師(2番 善龍寺、3番 高柳念仏堂跡、7番・54番 福満寺、8番・26番・46番 持法院、15番 箕輪大日堂、17番 藤ヶ谷薬師堂、23番 高柳原堂、34番 箕輪石尊社跡、36番・57番 五條谷不動堂、39番 高柳高野堂、47番 藤ヶ谷熊野神社、49番・74番 泉蔵寺、59・81番 如意寺、27・82番 福寿院)、旧吉橋大師(74番 泉蔵寺、18・76番 寿量院、81番 如意寺、82番 福寿院)、下総三十三箇所観音霊場(13番 如意寺、14番 福満寺、25番 福寿院、27番 持法院)	\Rightarrow	 神明社石鳥居 鮮魚街道 手賀沼のうなぎ漁, 鴨猟 手賀沼の干拓 十二座神楽 大師講 野馬土手
近現代	【遺跡】中秋丸と渡船場,藤ヶ谷飛行場【建造物】寿量院本堂,杉村 楚人冠別荘,永木屋【植物】カタクリ群生地【その他】大津ヶ丘団地		・大津ヶ丘団地



写真 2-42:妙照寺の杉樹



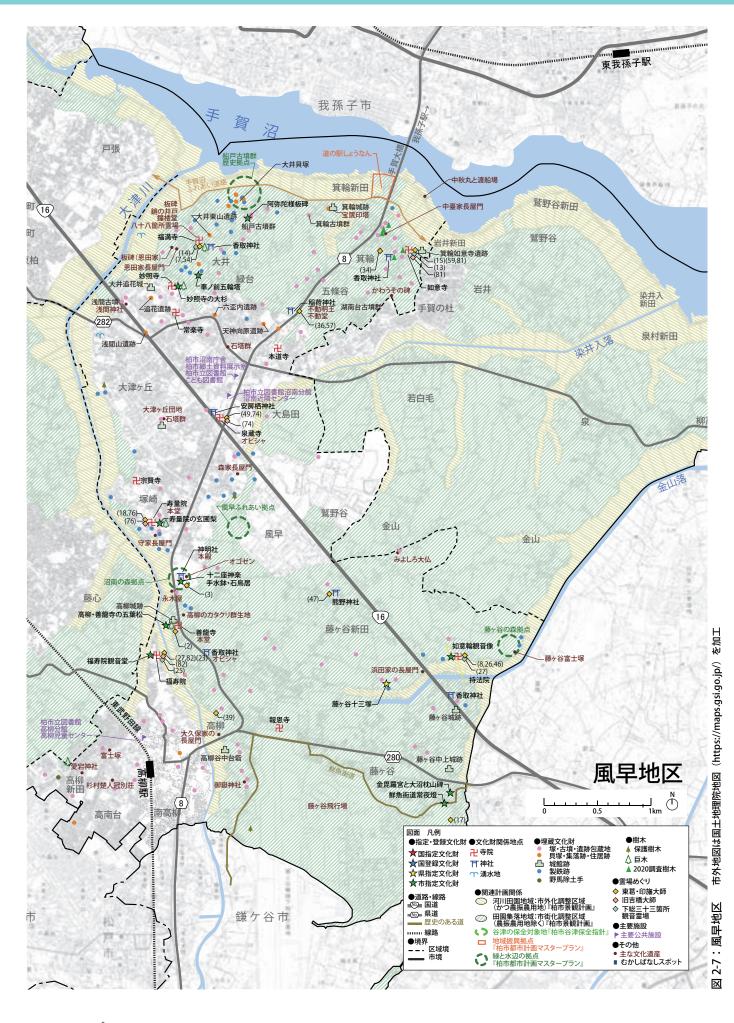
写真 2-43:神明社石鳥居



写真 2-44:持法院 如意輪観音象



写真 2-45: 鮮魚街道常夜燈



⑥手賀地区

旧石器時代~弥生時代

旧石器時代は片山古墳群と泉の石揚遺跡の調査で確認されている。縄文時代は手賀の杜の湖南台遺跡群で早期から後期にかけての集落跡が確認されている。前期の貝塚は手賀の明坊池貝塚、金山宮後原遺跡で確認され、中期の布瀬貝塚からは豊富な骨角器が確認され注目される。安行1式土器設定の標識となった岩井貝塚は後期から晩期にかけての貝塚である。

他地区と同様に弥生時代の集落は、手賀の杜の湖南台遺跡群において後期の小規模な集落跡が確認されている。 鷲野谷の幸田原遺跡からも後期後半の住居跡が確認された。

古墳時代~中世

幸田原遺跡からは古墳時代出現期の集落も確認されており、外来系の土器を出土したり、環壕を伴う集落で、戸張一番割遺跡や戸張城山遺跡と時期や内容に共通点がある。片山の北ノ作 1・2 号墳は古墳時代前期の前方後方墳で、1 号墳は弥生終末から古墳初頭の築造とされ、県指定文化財に指定されている。石揚遺跡からは古墳時代前期の方墳群と前期から後期前半までの集落が確認された。また、湖南台遺跡群の岩井出口遺跡からも、外来系の土器を出土する集落が確認されている。集落は前期前半から中期が主体である。

奈良・平安時代は片山荒久遺跡、経塚遺跡、四条前遺跡などで小集落が見られるのみで閑散とする。土砂採取により消滅した平安時代の手賀廃寺からは軒先瓦が採集されている。また、平安時代末期の大治5年(1130)の平常重の寄進状写に「布施(瀬)郷」とあり、このころすでに「布瀬」の地名が存在していたといえる。このほか、『相馬文書』や『相馬岡田文書』に「手賀郷」「かミやなと」「いつミのむら」「かなやま」「鷲谷村」の地名が14世紀代に見られるため、手賀、柳戸、泉、金山、鷲野谷などは、この頃に現在の集落の基盤が成立したと考えられる。

戦国期に入ると、千葉氏の一族である原氏が手賀城を築き、戦国末期には主家をしのいで勢力を伸ばす。 このほか相馬氏系の城とされる泉城などが水上交通路に沿って築かれる。当地区にある古刹興福院には室 町時代の作とされる「十一面観音像」がある。弘誓院には、鎌倉時代の作とされる「聖観世音菩薩」、室 町時代の作とされる「妙法蓮華経版木」、古木「銀杏樹」などがある。

近世

近世は当地区においても幕府領、田中藩本多氏の領有地、旗本の地行地とに3分される。当地区では数回にわたり幕府や大商人の財力により手賀沼の干拓事業が行われたが、水害などにより成功を見ずに終わっている。干拓は近代以降も計画され、完成したのは昭和42年(1967)である。

近現代

近代には地区の有力者たちが東方正教を受け入れ、明治 12 年(1875)手賀教会を設立し、明治 14 年 (1873) には民家を現在の地に移築し教会堂とした。

戦争の波は例外なく柏も呑み込んだ。手賀地区,風早地区に残された資料から,15年戦争の期間中に

両地区合わせて 270 人の戦没者を出していることが判明している。両地区の当時の人口約 8,000 人で, 20 才から 50 才までの男性は約 2,000 人と推計され, これに対し 270 人の戦没者は決して少なくない数である。昭和 21 年(1946)の調査では 400 人以上が帰還していることを考えると, 実際に狩り出された村民は相当数いたと思われ, これは, 資料のない他地区においても同様であったと思われる。

平成時代に湖南特定土地区画整理事業が行われた区域以外は,市街化調整区域であり,良好に自然と文化財を残している。



写真 2-46:旧手賀教会堂

表 2-11: 手賀地区の主な文化遺産

表 2-11・芋負地区の主は又化退産						
時代	代表的な文化遺産		文化遺産の分類			
旧石器時代	【遺跡】片山古墳群,石揚遺跡	\Rightarrow	・ 古墳群と遺跡			
縄文時代	【遺跡】湖南台遺跡群,岩井貝塚,石揚遺跡,明坊池貝塚,埋田遺跡,布瀬貝塚	\Rightarrow	・湖南台遺跡群集落跡 ・複数の貝塚			
弥生時代	【遺跡】湖南台遺跡群,幸田原遺跡	\Rightarrow	・小規模集落跡			
古墳時代	【遺跡】湖南台遺跡群,石揚遺跡,片山古墳群,北ノ作1号・2号墳,原古墳群【美術工芸品】鏡形土製品(幸田原遺跡)	\Rightarrow	・古墳時代出現期の集落 ・外来系の土器 ・北ノ作 1・2 号墳(前方後円墳)			
奈良・ 平安時代	【遺跡】手賀廃寺,製鉄遺跡群【美術工芸品】木造聖観音菩薩坐像 (弘誓院)【その他】香取・鳥見神社,福蔵院,興福院	\Rightarrow	・寺跡、仏像			
中世	【遺跡】鷲野谷城跡,手賀城跡,泉妙見山城跡,泉城跡,柳戸砦跡, 高野館跡,金山寺山砦跡,泉妙見社,兵主・八幡神社,宝寿院, 南蔵院【美術工芸品】薬師如来坐像(医王寺),大日如来坐像(南 蔵院)【建造物】板碑(おせし様板碑)	\Rightarrow	・平将門関係遺跡・城跡・仏像,板碑			
近世	【遺跡】富士塚(金山、三軒屋)、染井塚、切返シ塚群、千間堤跡、水塚、染谷家墓所【建造物】兵主・八幡神社本殿、六所神社本殿、泉島見神社本殿・拝殿、金山鳥見神社天満宮、鷲野谷香取神社本殿、鷲野谷星神社本殿、将門神社本殿、妙見社、日枝神社、古峯神社、皇太神宮、弁財天宮、宝寿院山門、興福院山門・鐘楼堂・宝篋印塔、弘誓院本堂・鐘楼堂、吉祥院二十三夜堂、門林寺本堂・山門・子安堂、長栄寺庫裡・薬師堂、長覚院本堂・鷲野谷医王寺本堂・山門、鷲野谷善龍寺大師堂、龍光院本堂・山門・地蔵堂・大師堂、勝矢堂、辻堂、観音堂、ヨタイ観音堂、滝不動、しばり地蔵、延命地蔵菩薩、花見堂地蔵、弘法大師像、布瀬百庚申、手賀庚申塔群、大日様石塔群、一石一字塔、染谷家住宅、長屋門(村田家、湯浅家、高橋家、深山家、山崎家、清宮家、江口家)一ツ井戸、十一面観音、若白毛庚申塔群、幸田原庚申塔群、鷲野谷庚申塔群、泉庚申塔群【民俗文化財】若白毛ばやし、手賀ばやし、オビシャ(若白毛)、鳥ビシャ(泉・鷲野谷)、あんばさま、大杉さま、東葛・印旛大師(5番・35番門林寺、6番・73番龍光院、11番布瀬薬師堂、13番兵主・八幡神社、14番善龍寺、20番・88番鷲野谷医王寺、21番福蔵院、29番・30番・87番長栄寺、31番泉不動堂、33番龍泉院、38番鷲野谷香取神社、40番柳戸阿弥陀堂、51番鷲野谷日枝社、62番・79番宝寿院、64番手賀稲荷社、70番泉二十三夜堂、71番鷲野谷善龍寺、72番南蔵院、75番・85番興福院、71番鷲野谷善龍寺、72番南蔵院、75番・85番興福院、71番鷲野谷善龍寺、72番南蔵院、73番岩井龍光院、75番興福院、77番手賀明王院、79番宝寿院、83番弘誓院、85番手賀千寿院、86番下柳戸西光院、87番長覚寺、88番鷲野谷医王寺)、下総三十三箇所観音霊場(8番興福院、24番鷲野谷善龍寺、30番宝寿院、33番弘誓院」【植物】大銀杏(弘誓院)、杉桜(弘誓院)【その他】手賀沼のウナギ猟・鴨猟	⇒	 ・手賀沼の開墾,洪水 ・若白毛ばやし等の祭礼 ・民間信仰の発達 ・霊場(札所)巡りの流行 ・寺社の建造物 ・染谷家住宅等の建造物 			
近現代	【遺跡】手賀原氏(原胤昭)の墓所【建造物】旧手賀教会堂,金山鳥見神社本殿・拝殿,若白毛八坂神社本殿,鷲野谷日枝社本殿,坪井正五郎の碑,古墳之碑,弁栄聖者顕彰碑,鴨猟の記念碑【美術工芸品】手賀教会聖画,旧手賀教会堂石版画イコン【植物】ハスの群生地	\Rightarrow	・手賀教会の設立 ・手賀沼の干拓			



写真 2-47:おせし様板碑



写真 2-48:医王寺 薬師如来坐象



写真 2-49: 弘誓院



写真 2-50: 北ノ作1号・2号墳

